

水稻の生育状況と当面の対策

基本技術を励行して消費者に「おいしいお米」を届けよう！

<http://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>

第 6 報
千葉県農林水産部
平成29年7月28日

「ふさおとめ」の成熟期は8月11日頃からと予測 適切な水管理と適期収穫を行いましょ

[生育概況]

7月に入り、気温は平年より高く推移し、全体的に生育の進みはやや早くなっています。

4月20日頃に植付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コシヒカリ」の出穂期は、平年と比較して2日から3日程度早くなっており、成熟期は早いところで「ふさおとめ」は8月11日頃から、「ふさこがね」は8月16日頃から、「コシヒカリ」は8月24日頃からと予測されます。

また、5月1日頃に植付した「コシヒカリ」の出穂期は3日程度早くなっており、成熟期は早いところで8月29日頃からと予測されます。

表1 品種別の生育進度と成熟期の予測

品種	植付時期	出穂期の 平年比較	成熟期予測			
			県北 (香取市)	九十九里 (茂原市)	内湾 (千葉市)	県南 (館山市)
ふさおとめ	4月20日	やや早	8月15日	8月12日	8月11日	8月12日
ふさこがね	4月20日	やや早	8月20日	8月16日	8月16日	8月16日
	5月1日	やや早	8月25日	8月21日	8月21日	8月21日
コシヒカリ	4月20日	やや早	8月28日	8月25日	8月24日	8月25日
	5月1日	やや早	9月3日	8月30日	8月29日	8月30日
	5月10日	やや早	9月5日頃～			
飼料用米(アキヒカリ)	5月15日	—	8月25日頃～			
飼料用米(夢あおば)	5月15日	—	9月10日頃～			

※成熟期予測は、水稻作柄安定対策調査ほの調査結果から、各品種の出穂期から成熟期の標準的な日数を加えて予測。飼料用米は栽培事例からの予測。

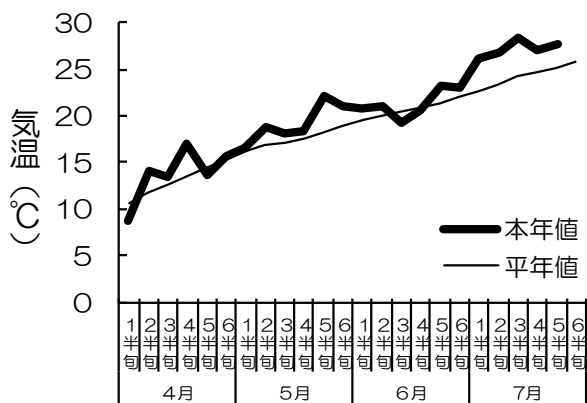


図1 日平均気温の推移 (アメダス、佐倉)

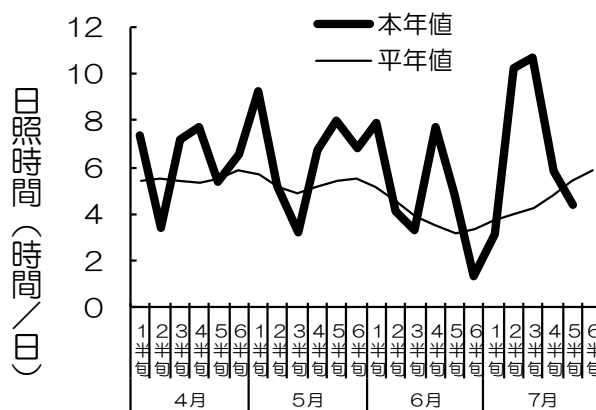


図2 日照時間の推移 (アメダス、佐倉)

[これからの管理のポイント]

■ 斑点米カメムシ類の防除（斑点米カメムシ類の多発生に注意）

飼料用米でもカメムシ類をはじめとした病害虫防除は適切に実施しましょう。

穂揃期頃に共同防除を実施した地域においても、その後、出穂期7日後から14日後頃の乳熟期に斑点米カメムシ類が多く見られた場合は、農薬の収穫前使用日数、使用回数に注意し、追加防除を行いましょ。

なお、防除に当たっては、周辺に養蜂場がある場合は粒剤の使用を検討する等、水田に飛翔した蜜蜂に影響がないよう農薬散布に留意しましょう。詳しくは、お近くの農業事務所にお問い合わせください。

■ 乳白米の発生を防止する水管理

～出穂期14日後までは湛水管理を行いましょ～

気象庁から、7月19日頃に梅雨明けと発表されました。梅雨明け後の高温・水不足に注意し、出穂期14日後までの間は湛水管理をしっかり行い、品質低下を防ぎましょ。

また、その後、出穂期14日後から出穂期25日後までは間断かんがいにし、徐々に田面を固め、コンバイン収穫に備えましょ。排水不良田では、出穂期25日後に田面が露出するよう、出穂期20日後頃を目途に落水を行いましょ。

なお、早期落水は品質低下を招く原因となります。ほ場毎に適切な水管理を行いましょ

■ 適期収穫（良品質米の生産のため適期に収穫を）

収穫は、登熟状況を十分に観察し、帯緑色籾歩合15%の時に行いましょ。

（注：帯緑色籾数は生育中庸な10株から主稈と思われる茎の太い穂を選び、不稔籾を除いて数えます。図3参照）

なお、収穫期の目安は、出穂期（全穂数の40～50%が出穂した日）から「ふさおとめ」で33日前後、「ふさこがね」で37日前後、「コシヒカリ」で38日前後です（表1参照）。

早刈りでは青未熟粒、刈り遅れでは胴割米等が発生し、品質・食味を低下させましょ。

また、収穫した籾を3時間以上炎天下に放置しておくと、品質が低下しましょ。収穫後は速やかに乾燥しましょ。

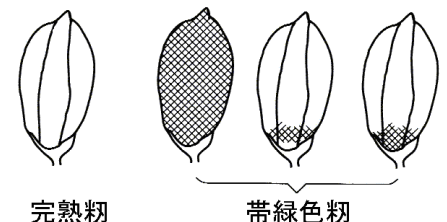


図3 帯緑色籾の見分け方
少しでも緑色の部分があれば、帯緑色籾として数えます。

■ 乾燥は丁寧に、仕上げ水分は適切に

高温による急速な乾燥や過乾燥等は胴割れ米を発生させ、品質・食味を低下させましょ。乾燥は平均毎時乾減率0.7～0.8%で行い、仕上げ水分は14.5～15.0%としましょ。

また、乾燥終了直後の、籾の温度が高い状態で籾すりを行うと、肌ずれ米や胴割米を生じるので、十分に放冷し、温度を下げたから行いましょ。

■ 選別には 1.8mm 以上の網目

粒厚1.8mm以上の米は粗タンパク含有率が低く、おいしいお米です。粒が小さい米の混入は粗タンパク含有率を高める原因になるので、選別の網目は1.8mm以上にしましょ。

また、大粒が特徴の「ふさのもち」については、1.9mm以上にしましょ。

■飼料用米について

○飼料用米の収穫適期

飼料用米の収穫適期は、「アキヒカリ」、「初星」が出穂期から 35～40 日後、「夢あおば」が出穂期から 45 日後頃であり、帯緑色籾歩合は 15～20%を目安とします。

耐倒伏性に優れる「夢あおば」では、収穫適期以降、好天が続くと予想される場合は収穫を遅らせて立毛の状態乾燥（立毛乾燥）を進め、乾燥機の燃料コストの低減を図りましょう。

○飼料用米の乾燥・調製

食味及び外観品質を考慮する必要がないので、区分管理の場合は乾燥時の温度をやや高めに設定して乾燥効率を上げましょう。

また、農産物検査規格が主食用米と異なるため、ふるい分けが必要ありません。

○自然災害等で減収した場合

自然災害等で減収した場合、一括管理方式においては、当初に設定した販売契約等数量を変更することができます。ただし、収穫前に行う農産物共済の損害評価高の調査等により、客観的にその減収量が確認される必要があります。

■異品種混入の防止

異品種の混入を防止するため、品種切り替え時は、コンバイン、乾燥機、粳すり機等をていねいに清掃しましょう。

■生産履歴記帳

「売れる米づくり」に栽培管理の記録は不可欠です。集荷団体では、出荷に当たって「生産履歴」（栽培管理記録簿）の提出をお願いしています。もう一度記録簿を確認しておきましょう。基本技術を励行し、信頼されるおいしいちばのお米を生産しましょう。

■きめ細やかな水管理で節水を

梅雨入り以降、降水量が少なめに経過しているため、県南部の農業用ダムの貯水率は例年に比べ低く、県内河川の水量も少ない状況です。

出穂2週間後までは湛水管理が必要ですが、湛水に用いる農業用水は地区内で計画的に利用し、さらに、かけ流しや漏水を防止し、大切に使いましょう。

過去に掲載した内容、水稻栽培の基本情報、病害虫の発生予察情報等については、千葉県ホームページ「生育情報」を御覧ください。

(<https://www.pref.chiba.lg.jp/seisan/seiiku/index.html>)